

# 組織目標管理シート

年度	令和5年度	(参考) 関連する総合計画に おける政策指標	道路(橋を含む)が適切に整備・管理されていると思う市民の割合	作成日	R5.4.1
組織名(部)	土木部	組織名 (準部・課・機関名)	土木総務課	評価日	R6.3.31

○:達成  
△:一部未達成  
×:未達成

No.	組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針	
		総合計画(実施計画)上の位置づけ	取組指標	R5目標	R5結果	取組名称(事業名)				概要
1	道路施設について、定期的な点検を実施します。特に施設数の多い橋りょうについては、計画的な補修に取り組み、更新時期の延伸を図ります。	政策15-1-①	橋梁の一巡目点検における判定区分Ⅲの橋梁に対する修繕着手率	46%	48%	橋りょうの維持補修	定期点検により補修が必要な状態を確認した橋梁について、補修を実施し、健全性を回復させることにより施設の長寿命化を推進します。	○	補正予算を活用することで、目標よりも進捗することができました。	引き続き計画的な補修に取り組み、更新時期の延伸を図ります。
		政策15-1-①	路面性状調査の実施延長(累計) [R4末現状値75km]	156km	157km	道路の維持管理	交通量の多い幹線道路において、舗装状態を把握するための路面性状調査等を実施し、その結果に基づいた適切な補修を推進します。	○	計画的に調査を進めた結果、目標を達成しました。	引き続き調査を実施し、調査結果に基づいた適切な補修を推進します。
2	都市部や生活圏において、多様なライフスタイルに合わせた環境に優しい移動手段として、歩行空間や自転車利用環境の向上に取り組みます。	政策14-1-②	自転車利用環境計画の達成度評価と改善点の洗い出し	自転車利用環境計画の改定	自転車利用環境計画の改定	自転車走行空間の整備	歩行者と自転車利用者が安全に通行できるように、車道の路肩に自転車走行空間を示す路面標示を設置するなど、歩行者、自転車、自動車適切に分離された空間整備を推進します。	○	パブリックコメントを実施したうえで、自転車利用の環境の変化に則した改定を行いました。	新たな計画に基づき、施策を推進します。
3	通学路における児童や未就学児を交通事故の被害から守るため、安心・安全な歩行空間の確保を推進します。	政策15-1-④	通学路交通安全プログラムの対策達成率	75%	87%	交通安全施設整備事業	「通学路交通安全プログラム」に基づき、小学校の通学路及び未就学児が日常的に集団で移動する経路において、防護柵の設置や路側帯のカラー化など交通安全対策を実施します。	○	八街市の事故による対策必要箇所の整備を重点的進めた結果、目標値を大幅に達成しました。	引き続き要対策箇所について対応していきます。
4	高度化・複雑多様化する行政課題を市民の視点で考え、解決することができる職員を育成します。また、急激に変化する経済社会状況や将来起こりうる課題に対応できる職員育成に取り組みます。	行財1-4-①	各グループの業務をテーマとした、職場内研修会の開催	4回 (各グループで講師役各1回)	2回開催	課内研修会の開催	職員による説明会形式の研修を実施します。講師・受講者の双方を経験することで、幅広い知識の習得とグループ間で課題の相互理解、説明能力・資料作成能力の向上を図ります。	○	当初、研修4回を開催する予定としていましたが、震災対応の影響から2回開催にとどまりました。開催できない部分は、部内(発表)研修や研修資料の供覧などより職員のスキルアップを図りました。	今後も震災の対応が続くなか、高度化・複雑多様化する課題を市民の視点で考え、解決することができる職員を育成を目指します。

# 組織目標管理シート

年度	令和5年度		(参考) 関連する総合計画における政策指標	・港、空港、新潟駅、高速道路などの広域交通インフラの利便性が以前と比べて向上していると思う市民の割合 ・道路(橋を含む)が適切に整備・管理されていると思う市民の割合	作成日	R5.4.1
組織名(部)	土木部	組織名 (準部・課・機関名)	道路計画課		評価日	R6.3.29

○:達成  
△:一部未達成  
×:未達成

No.	組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針	
		総合計画(実施計画)上の位置づけ	取組指標	R5目標	R5結果	取組名称(事業名)				概要
1	・日本海沿岸東北自動車道のミッシングリンク解消や磐越自動車道の4車線化整備などにより、平時の交流・物流機能に加え、災害時・緊急時における安全・迅速な輸送などを支える拠点間ネットワーク機能の強化を図ります。 ・日常的な移動はもとより、業務活動・物流・観光などの社会経済活動や、災害時における安全・迅速な輸送などを支えるため、放射・環状型の道路ネットワークの整備を推進します。	政策14-3-① 政策15-1-②	・要望活動による整備促進 ・整備促進	・整備促進	・整備促進	・高規格幹線道路の整備促進  ・直轄国道の整備促進	・日本海沿岸東北自動車道のミッシングリンク解消及び磐越自動車道全線4車線化の整備促進に向けて、各種同盟会などを通じ、国への要望活動を行います。  ・本市の拠点性を高め、多核連携型の都市構造を支える放射環状型の幹線道路ネットワークの骨格をなす直轄国道の整備のさらなるスピードアップに向け、国とともに地域の理解醸成を図ります。	○	・各種同盟会などを通じて、国への要望活動を行い、計画的に各自動車道の整備を促進しました。  ・当初・補正予算を併せて、直轄国道の整備促進を図り、広報などを通じて、地域の理解醸成を図りました。	・整備促進
2	地震などの自然災害から市民の生活を守るため、維持管理部門と連携しながら、橋りょうの計画的な更新を推進し、都市基盤の強化を図ります。	政策15-1-①	・老朽化した橋りょうの計画的な更新	・更新箇所 4橋	・更新箇所 4橋	・老朽化した橋りょうの計画的な更新	・地震などの自然災害から市民の生活を守るため、老朽化した橋りょう(山ノ下橋、亀田跨線橋、小須戸橋、塩俣橋など)の計画的な更新を推進します。	○	・老朽化した橋りょう4橋の計画的な更新を推進しました。	・更新箇所 4橋
3	・日常的な移動はもとより、業務活動・物流・観光などの社会経済活動や、災害時における安全・迅速な輸送などを支えるため、放射・環状型の道路ネットワークの整備を推進します。	政策15-1-②	・新潟中央環状道路の整備推進	・整備推進	・整備推進	・新潟中央環状道路の整備	・多核連携型の都市構造を支え、各地域拠点間の交流・連携軸となる新潟中央環状道路の整備を推進します。なお、新潟中央環状線の国道8号から国道49号区間のうち、整備効果を早期に発現できる区間を選定し、優先的に整備を行い、早期供用を目指します。	○	・現在事業中である国道8号から国道49号間において、計画的に新潟中央環状道路の整備を推進しました。	・整備推進
4	鉄道駅における交通結節点の機能強化と賑わいの創出を図るとともに、快適性・安全性を高めるため、駅前広場、自由通路へのエレベーターの設置をはじめとしたバリアフリー化など、ユニバーサルデザインの考えに基づいた整備を推進します。	政策14-1-②	・越後石山駅及び巻駅の自由通路及び駅前広場の整備推進	・整備推進	・整備推進	・越後石山駅・巻駅周辺整備事業	・越後石山駅、巻駅について、駅前広場、自由通路の整備と併せてバリアフリー化を推進します。	○	・東日本旅客鉄道(株)との協議を進め、計画的に越後石山駅・巻駅周辺整備の事業を推進しました。	・整備推進
5	高度化・複雑多様化する行政課題を市民の視点で考え、解決することができる職員を育成します。また、急激に変化する経済社会状況や将来起こりうる課題に対応できる職員育成に取り組めます。	行財1-4-①	・研修会等参加回数(延べ人数)  ・部内研修会開催回数	・24回(12人×2回)  ・3回開催	・47回  ・3回開催	・職員の能力開発、キャリア育成	・人材育成基本方針に基づき、職員に必要とされる基本的な資質・能力の育成や階層別研修のほか、専門能力の向上及び、自己開発に向けた支援を行います。	○	・目標を上回る47回の研修会等に参加しました。  ・部内研修を3回開催し、発表者のプレゼンテーション能力向上を図りました。	・24回  ・3回開催

# 組織目標管理シート

年度	令和5年度	(参考) 関連する総合計画における政策指標	・都心部で以前と比べ緑が増えたと思う市民の割合 ・身近な公園について、安心・安全で快適に利用できると思う市民の割合	作成日	R5.4.1
組織名(部)	土木部	組織名 (準部・課・機関名)	みどりの政策	評価日	R6.3.29

○:達成  
△:一部未達成  
×:未達成

No.	組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針	
		総合計画(実施計画)上の位置づけ	取組指標	R5目標	R5結果	取組名称(事業名)				概要
1	都心エリアにおいて、公民連携による緑化の推進に取り組み、都心の魅力と価値の向上につなげます。	政策14-2-①	民有地における緑化助成制度の活用件数(累計)	3件	1件 (活用相談中3件)	緑のまちなか空間創造事業	にいがた2kmを中心に、みどり豊かな魅力ある都市空間形成を進めるため、公園等の利活用や道路等公共空間を活用した花や緑による演出を行うほか、民有地における緑化の取り組みについて費用の一部を支援します。	○	R5年度での申請・完成は1件であるが、相手方の事業スケジュールによりR5年度の申請・実施とならなかったものの、活用に向けた相談を進めた案件が3件となった。	活用を見込む3件について、引き続き申請につながるよう取り組むとともに、小規模な活用を含め新規案件の獲得に向け、継続的にPR・セールスを実施する。
2	良好な住環境の創出につなげるため、社会情勢やニーズの変化に対応したリニューアルを推進します。	政策14-4-②	・地域ニーズに対応したリニューアルを行った都市公園数(累計) ・都市公園トイレのバリアフリー化率	・6公園 ・64.7%	・6公園 ・64.7%	・都市公園ストック再編事業  ・都市公園安全・安心対策緊急総合支援事業	・地域ニーズを踏まえ、子育て支援や高齢者支援に資する都市公園のリニューアルを行います。  ・都市公園内のトイレなど、公園施設のバリアフリー化を行います。	○	・中央区下河原公園のリニューアルが完了し、累計6公園となった。  ・計画に基づき、7箇所のバリアフリー化を行った。	・引き続き、東区新栗の木緑地のリニューアル工事を進めるとともに、次の事業候補を検討する。 ・引き続き、優先度の高い箇所からバリアフリー化を行っていく。
3	持続可能で安全かつ快適な公園利用のため、地域住民との協働による維持管理を推進します。	政策14-4-②	公園愛護会が管理に参加する公園の割合	87%	87.1%	公園愛護会活動の推進	公民連携による公園維持管理の手法として、地域住民等で構成する愛護会が公園の清掃や除草、安全確認等を行います。	○	愛護会の手続きの利便性向上を行うなど、担い手の環境改善に取り組んだ。愛護会結成率は維持されている。	愛護会の主な担い手である自治会等以外にも、企業などが新たな担い手となるような制度検討を進める。
4	高度化・複雑多様化する行政課題を市民の視点で考え、解決することができる職員を育成します。また、急激に変化する経済社会状況や将来起こりうる課題に対応できる職員育成に取り組めます。	行財1-4-①	研修会等への参加(延べ人数)	12	21	部内研修、庁内庁外での研修会等への参加	当課業務の枠に拘らない研修会の参加と報告会の実施等により、職員の知識・技術力の向上を図ります。	○	参加延べ人数は21人となり、目標を達成した。	引き続き、スタッフの知識やスキル獲得に向けて、積極的な研修参加を促していく。

# 組織目標管理シート

年度	令和5年度		(参考) 関連する総合計画における政策指標	道路(橋を含む)が適切に整備・管理されていると思う市民の割合	作成日	R5.5.1
組織名(部)	土木部	組織名 (準部・課・機関名)	東部地域土木事務所		評価日	R6.3.31

○:達成  
△:一部未達成  
×:未達成

No.	組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針	
		総合計画(実施計画)上の位置づけ	取組指標	R5目標	R5結果	取組名称(事業名)				概要
1	日常的な移動はもとより、業務活動・物流・観光などの社会経済活動や、災害時における安全・迅速な輸送などを支えるため、放射・環状型の道路ネットワークの整備を推進します。	政策15-1-②	上半期工事発注率 9月末工事執行件数/R5年度工事発注予定(250万円以上)件数	80%	80.0%	工事の早期発注	適正な履行期間の設定や平準化を考慮し、計画的な工事の発注を行います。	○	発注が遅れている工事については係長などに聞き取りをしながら計画的に発注を進めた。 (発注数20本/25本)	事業進捗状況確認の会議の実施などにより問題点や課題を把握し、計画的な発注に取り組みます。
2	日常的な移動はもとより、業務活動・物流・観光などの社会経済活動や、災害時における安全・迅速な輸送などを支えるため、放射・環状型の道路ネットワークの整備を推進します。	政策15-1-②	新潟中央環状道路の整備推進 国道49号から信濃川右岸までの整備率 (城所工区、二本木工区、嘉瀬・割野工区、酒屋町工区)	42%	43.8%	新潟中央環状道路の整備	多核連携型の都市構造を支え、各地域拠点間の交流・連携軸となる新潟中央環状道路の整備を推進します。なお、新潟中央環状線の国道8号から国道49号区間のうち、整備効果を早期に発現できる区間を選定し、優先的に整備を行い、早期供用を目指します。	○	問題点や課題を早期に解撤しながら工事を進めた。 (整備率43.6%(事業費ベース))	問題点や課題を早期に解決するとともに、懸案事項や用地交渉状況等の情報を共有しながら事業を進めます。
3	橋りょう、トンネル、横断歩道橋などの道路施設について、定期的な点検を実施します。特に施設数の多い橋りょうについては、計画的な補修に取り組み、更新時期の延伸を図ります。	政策15-1-①	一巡目点検における判定区分Ⅲの橋梁に対する修繕着手率	22%	23.8%	橋りょうの維持補修	橋りょうなどの道路施設の状態を把握するために、新技術等を積極的に取り入れながら効率的な定期点検を実施します。また、市民の安全・安心を確保するために、定期点検により補修が必要な状態を確認した道路施設について、補修を実施し健全性を回復させることにより施設の長寿命化を推進します。	○	発注が遅れている工事については係長などに聞き取りをしながら計画的に発注を進めた。 (R5年度着手数8橋、累計着手数15橋/63橋)	事業進捗状況確認の会議の実施などにより問題点や課題を把握し、計画的な発注に取り組みます。
4	高度化・複雑多様化する行政課題を市民の視点で考え、解決することができる職員を育成します。また、急激に変化する経済社会状況や将来起こりうる課題に対応できる職員育成に取り組みます。	行財1-4-①	研修内容の理解度、知識習得度を5段階評価(全発表者の平均)	4	4.4	職場内研修の開催	専門性の高い内容の伝達や技術の継承にむけた職場内研修を実施するとともに、発表した若手職員には、発表後、補佐主導により研修内容の振り返りを行い、業務への活かし方や計画立案能力の向上を図る。	○	研修後のアンケート結果により理解度が高いことが確認出来た。 (6人発表、理解度の平均4.37)	知識の向上を目的とする一方、若手職員の発表時には意識的に多くの質問を行うなど、プレゼンテーション能力の向上に繋がるような研修を行います。



# 組織目標管理シート

年度	令和5年度	(参考) 関連する総合計画に おける政策指標	・道路(橋を含む)が適切に整備・管理されていると思う市民の割合	作成日	R5.4.1
組織名(部)	土木部	組織名 (準部・課・機関名)	西部地域土木事務所	評価日	R6.3.31

○:達成  
△:一部未達成  
×:未達成

No.	組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針	
		総合計画(実施計画)上の位置づけ	取組指標	R5目標	R5結果	取組名称(事業名)				概要
1	多角連携型の都市構造を支える、放射・環状型の道路ネットワークを強化します。	政策15-1-②	・整備推進	・整備推進	・整備推進	・新潟中央環状道路 ・小新亀貝線 ・獅子ヶ鼻大橋 ・塩俵橋 ・黒鳥BP ・鯉淵古川線	日常的な移動はもとより、業務活動・物流・観光などの社会経済活動や災害時における安全・迅速な輸送などを支えるため、放射・環状型の道路ネットワークの整備を推進します。	○	各路線において、定期的な事業進捗状況の確認により、課題等に対して早期解決を図りながら事業進捗し目標を達成しました。	引き続き、計画的に事業を推進し、社会経済活動や災害時における安全・迅速な輸送を支える放射・環状型の道路ネットワークの強化を図ります。
2	安心・安全な道路ネットワークの確保のため道路施設の長寿命化に取り組めます。	政策15-1-① 政策15-1-③ 行財2-2-②	・補修橋梁着手率 着手率(累計数) 当該年度着手数	60%(35) 9	64%(37) 11	・橋梁維持補修 (対象58橋)	管内の橋りょうの定期点検を実施し、計画的な補修に取り組めます。 ※点検により対象数・実施率が変化します。	○	補正予算の積極的活用により当初計画を上回る事業進捗を図りました。	引き続き、関係機関との円滑な調整を図りながら補修対象橋りょうの対策を進めていく。
3	安心・安全な道路ネットワークの確保のため、災害・事故対策を推進します。	政策15-1-④	・対策実施率 実施率(累計数) 当該年度実施数	75%(55) 4	75%(55) 4	・道路防災事業 (要対策箇所73箇所)	管内の緊急輸送道路上における落石・崩壊や土石流などの被害が想定される要対策と判定された施設の防災対策を推進します。 ※点検により対象数・実施率が変化します。	○	各事業の定期的な事業進捗状況の確認により、課題等に対して早期解決を図りながら事業進捗し目標を達成しました。3箇所は対策済み。	引き続き、関係機関との円滑な調整を図りながら要対策箇所の対策を進めていく。
4	次世代に対応した職員を育成します。	行財1-4-①	・研修内容や満足度評価 (5点満点:評価点 4.0以上の割合)	50%	80%	・当課の業務に拘らな い研修会に参加し報 告会を開催するととも に、所属職員が講師と なる勉強会・検討会を 開催。	職務に必要な技術力はもとより組織力の向上を目的に、知識・経験の共有や継承に努め、本市の安心・安全なまちづくりの土台となる社会資本整備を担う職員育成に取り組めます。	○	所属全体の意欲的な取り組みにより目標を達成しました。	引き続き、職員の政令市職員としての資質や技術力の向上を図るべく、より魅力的・効果的な研修内容となるように取り組んでいく。